

農業も、医療も、福祉も... 外国人は日本の欠かせない担い手に

2025.11.23

鹿児島県内の外国人住民は、2015年の6635人から10年間で2.82倍の1万8685人に増え、全国で3番目に高い伸び率だった。食品加工など製造業をはじめ、農林、建設、医療・福祉と幅広い分野で欠かせない担い手となっている。相互理解に向け、自治体は日本語教室や地域交流など「接点づくり」に知恵を絞る。日本人側の理解の広がりも課題に上がる。自治体からは「住民には漠然とした不安もあったが、交流の場があると打ち解ける」との声が多く聞かれる。一方、「交流は留学生が主。技能実習生ら働く外国人への広がりや、『やさしい日本語』が分からないなど日本人側の理解が課題」（いちき串木野市）、「精密機器の製造などで人材は多国籍に及ぶ。企業側との連携が必要」（出水市）という意見もあった。人口に対する外国人の割合が県内最多の4.52%に上る大崎町の担当者は「サポーター人材の不足などに大きな課題がある」と指摘する。



外国人総合相談窓口で同僚と談笑する相談員のブー・テュー・リエンさん（右）＝20日、鹿児島市山下町のカクイックス交流センター

出典：<https://news.yahoo.co.jp/articles/9051186b3dcd18fb90514d1ea104cd6898575e3d>

「働く」だけじゃない。“暮らす”を支えたい—— 定着が課題の技能実習生。

2025.10.05

鹿児島県南薩地域振興局は南薩4市（枕崎、指宿、南さつま、南九州）に暮らす外国人向けの日本語講座を本年度から始めた。年5回開催し、3年間続ける計画。語学力向上に加え、地元住民との交流や日本文化に親しむ機会を設けることで、外国人材の定着を目指す。県などによると、南薩4市には2024年10月時点の推計で計2076人の外国人が居住する。中でも南薩地区は技能実習生の数が県内で最も多い。かつお節工場や養鶏場などで働く技能実習生が、高齢化や人口減少の続く地域で貴重な担い手になっている。



売店で店員に質問する外国人の受講者
＝枕崎市の南薩地域地場産業振興センター

鹿児島県の人口が100年ぶりに150万人割れ 外国人数は右肩上がり

2025.12.31

鹿児島県は、12月1日時点の推計人口は151万2723人で、うち外国人2万678人を除いた人口（149万2045人）が、150万人を割り込んだと明らかにした。出生数から死亡数を差し引いた自然動態は、この1年で1万5000人余り減少しており、6月時点で1925（大正14）年以来100年ぶりに150万人の大台割れとなっていた。外国人の割合は1.37%。記録が残る99年3月の0.18%から増加傾向が続いている。県統計課によると、推計人口は昨年同月と比べ、1万7468人減（外国人2713人増）となった。自然動態は1万5264人減り、転入出の差を示す社会動態も2204人減少した。世帯数は前年から871減の73万112世帯。



〈参考資料〉 桜島と鹿児島市街地

世界初！NAVIS HRが育成したインド人 トラックドライバーが日本に入学

2025.11.08

歴史的快挙：海外試験合格者が日本で物流業界へ
2025年10月29日、NAVIS HUMAN RESOURCES
Pvt. Ltd.（CEO 鴛渕 貴子、以下「NAVIS HR」）
が育成したインド・オディシャ州出身の若手トラ
ックドライバーが、インド国内で特定技能（自動
車運送業）評価試験に合格し、在留資格認定証
明書（COE）を取得。世界で初めて、海外で試験
を受けたトラックドライバーが日本に入学し、鹿
児島県出水市のマルイ運輸株式会社にて正社員と
して勤務を開始しました。



働いている中で予期せず赤ちゃんができたら... 日本で働く外国人の妊娠、孤立出産防ぐ手だてを

2025.11.23

技能実習生ら日本に住む外国人の妊娠・出産について考えるセミナー（移民女性のリプロダクティブ・ジャスティス主催）が鹿児島市の鹿児島大学であった。日本で出産した外国人や予期せぬ妊娠の事例を通じ、妊娠後の支援体制の整備などを求める声が上がった。在留外国人統計（2024年末現在）によると、鹿児島県内に住む外国人は1万8972人。うち女性は1万1038人で、技能実習生と特定技能生が6割以上を占める。その9割超が20～30代だ。



日本での出産体験を話す技能実習生のベトナム人女性（中央）＝鹿児島市の鹿児島大学郡元キャンパス

鹿児島で働く外国人が急増中。でも、6割の自治体は 日本語教室の「空白地」4000人超が居住

2025.11.17

鹿児島県では技能実習生を中心に外国人労働者が急増し、人口減少下で貴重な労働力となっている一方、約6割の自治体に日本語教室が存在しない「空白地」となっている。農業や食品製造業などでベトナム人などの受け入れが盛んな一方、学習機会の不足が地域社会とのコミュニケーションや生活面での課題を生んでいる。日本語教師の多く（5～6割）はボランティアに依存しており、地方部では指導者の確保や学習施設が不足している。言葉の壁がコミュニケーション不足や、過酷な労働環境、雇用契約トラブルの一因となっている。鹿児島市などの中心部では対策が進みつつあるが、県全体での教育機会の提供が、外国人材の定着と地域共生社会の実現に向けた課題となっている。



。

枕崎の技能実習生4人が監理団体を訴えた 第2回口頭弁論 フィリピン人女性

2025.10.28

鹿児島県枕崎市のかつお節工場で2018～23年に技能実習生として働いていたフィリピン人女性4人が、監理団体からの行動制限や劣悪な労働環境などで精神的苦痛を受けたとして、市水産物振興協同組合や実習先企業などに約970万円の損害賠償を求めた訴訟の第2回口頭弁論が28日、鹿児島地裁（窪田俊秀裁判長）であった。女性3人が本人尋問に臨み「枕崎での生活は自由とプライバシーがなかった。今でもトラウマを抱えている」と明かした。



鹿児島地方裁判所

「かつお節」に欠かせない外国人 生産・加工の現場で見た人手不足

2025.08.23

伝統的なだし素材「かつお節」。日本の食生活に欠かせないが、外国人がいなければ食卓に届けられなくなっている。何が起きているのか――。人手不足が深刻な生産、加工の現場を訪ねた。東京から南に約3千キロ離れた中西部太平洋の赤道付近。水産加工大手ニッスイの子会社、共和水産(鳥取県境港市)は、2隻の海外巻き網船でこの海域に出かけ、平均25日間ほどかけてカツオ数十万匹を水揚げする。「第78光洋丸」は全長約80メートル、幅14メートル。乗組員約30人のうち、半分近くはインドネシアやキリバス、ミクロネシアなどの外国人だ。



料亭などでも使われるかつお節の「本枯節」を作る山吉国沢百馬商店の技能実習生ら。手慣れた様子で、煮たカツオから手作業で骨を取り除いていた=2025年5月13日午後3時22分、鹿児島県指宿市山川新栄町、小川聡仁撮影

地方の外国人材流出を止める秘策は...「都会体験」？ 技能実習後も9割以上が働くJAの狙いとは

2025.12.28

地方の外国人材流出を防ぐため、JA鹿児島きもつき等は技能実習生に実費で「都会体験（旅行や研修）」をさせ、生活費や人間関係の高コストさを実感させる手法で定着率9割以上を維持している。憧れの都会と実際の生活のギャップを理解させ、地元での生活・労働環境の良さを再認識させる狙いがある。高い生活費や都会の人間関係の大変さを知ること、**「地方の方が安定して貯金でき、安心して暮らせる」と納得して定着する。**JA鹿児島きもつきではこの手法を用いて、特定技能移行後も9割以上の高い定着率を実現している。



🕒 外国人の在留資格・在留申請に...
技能実習制度の見直しと課題...